



- ① 家族3人で団らん。11月頃にはもう1人家族が増える予定。
- ② 近くの氷川河川敷は定番の散歩コース。
- ③ 師匠の寺本さんからは、技術だけでなく、農業をする上での心構えなど、様々な事を学んだという。
- ④ 独立して初めての収穫を11月頃に控える。「試行錯誤の日々ですが、やりがいがあります。」
- ⑤ 収穫したての「新しょうが」。一定期間貯蔵すると黄金色に変わる。

住人十彩

2020 October

#6 ~桑野大司さん・まどかさん~



このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。
今回は、平成30年から氷川町に移住し、しょうが農家をされている
桑野大司さん・まどかさん(新村南)です。



海外での経験後、就農へ

桑野大司さん(37)・まどかさん(38)は、長女の藝多ちゃん(3)と3人暮らし。

大司さんは福岡県、まどかさんは熊本県出身だが、就農をきっかけに、平成30年から氷川町に移住した。

大司さんとまどかさんは、大学時代に知り合い、卒業後はワーキングホリデー制度を利用して2年間、オーストラリアで過ごした。

結婚後も、大司さんは仕事のため、単身赴任で海外を転々とする生活を送っていたが、東南アジアでしょうが栽培事業の仕事をしていた際に、農業に魅力を感じたという。

その後、大司さんは日本にいるまどかさん・藝多ちゃんと一緒に暮らすため、平成30年に帰国。

就農するために県の新規就農支援センターやJAに相談したところ、日本有数のしょうがの産地である八代市東陽町での研修を勧められた。

研修先でお世話になったのは寺本誠さん一家(八代市東陽町)。

大司さん・まどかさんは師匠の寺本さんの元で、栽培方法や農業をする上での心構えを学んだという。

また、JAのしょうが部会での交流や勉強会に積極的に参加し、少しずつ知識を蓄えた。

しょうが農家として独立

1年半の研修期間を終え、独立。

中大野地区の農地を借り、開墾、土壌改良など、一からしょうが畑を作った。

「しょうがはとてもデリケートな作物で、栽培は試行錯誤の連続です。」と話す大司さん。

まどかさんが出産を控えていることもあり、現在は大司さんがほぼ1人でしょうがの管理をしている。忙しい毎日だが、その分やりがいもあるという。

「今後は、徐々に規模を拡大して収穫量を増やしていきたいです。」と話す2人。

移住してやがて2年が経つが、新鮮な農作物が手に入りやすく、のどかな景色が広がる氷川町を、家族は気に入っている。

周囲の温かな目に見守られながら、将来立派なしょうが農家になることを目指し、研鑽の日々を送る。

募集

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を募集しています。自薦・他薦は問いません。詳しくは、お問い合わせください。

申込先：企画財政課 企画係

☎0965-52-5850

メール：

kouhou@hikawa.kumamoto.jp